

“ビオトープ”の専門技術者 ★ 環境教育の指導者

ビオトープ 管理士

って vol.1
こんな人たち



日本ビオトープ管理士会
Association of Biotope Planners and Builders of Japan

この冊子で「ビオトープ管理士」を知ってください。

♡ 社会に貢献したい方

ビオトープ管理士は、社会に貢献したいという気持ちの強い方々です。その気持ちがあつたうえで、自然に関する正しい知識と認識、そして技術。それらを証明し活動を後押ししているのが、このビオトープ管理士の資格です。ぜひあなたもビオトープ管理士に。

♡ 事業でお困りの方

あらゆる事業において、環境への配慮無しには進められなくなった昨今。とはいえ、何をどうしたら良いのか分からないということも（良かれと思ってやったことで、かえって自然を壊してしまうこともあります）。そのようなときにはぜひ、ビオトープ管理士を頼ってください。

♡ 環境教育をお考えの方

技術者の面が強調されているビオトープ管理士ですが、この冊子でお分かりいただけるように、有資格者の多くは環境教育の指導者としても活躍しています（そのような方を特別に選んで掲載したわけではないのです）。ぜひ地域のビオトープ管理士を頼ってください。

♡ 行政関係の方

業者登録や入札参加の資格条件、スタッフ採用、指定管理者の選考などでその活用の幅がますます広がっているビオトープ管理士。まだご活用いただいていない場合は、まず巻末にある資格の活用例をご参照ください。また、事業の発注者として持っておきたいの資格にも。

♡ マスコミ関係の方

時折いただく「自然のことが分かる」「面白い人」を紹介して欲しい」という声。この冊子に掲載されている方々はほんの一握りに過ぎません。地域や年齢、職業、専門、活動内容などから絞り込んで紹介することも出来ますので、ご遠慮なくお問い合わせください。

♡ 学生の方

資格は、取り組んできたことや学んできたことが身になっていくという客観的な証明です。また、「ビオトープ」という専門分野を持つことは、何よりも大きな自信になります。すでに諸先輩方が活躍しているビオトープ管理士、特に学生にとっては自己PRの助けにも。

これまでに累計で約 11,000 人が認証されている『ビオトープ管理士』。ビオトープ事業の専門技術者として、同時に環境教育の指導者として、有資格者はさまざまな面で活躍しています。また、その専門性を認められ、業者登録や業務の発注、入札参加の資格条件など公的な場面でもこの資格制度をご活用いただくようになりました。

一方ではそれに比例するように、理念は理解出来るが具体的に何をやる人なのか分からない、興味はあるが資格を取ることのメリットがよく分から

ない、接触したいが顔が見えないから躊躇する、という声をお寄せいただくこともしばしば。

そこで私たちビオトープ管理士のグループ『日本ビオトープ管理士会』では、いろいろな立場、たとえば職業、年齢、持っているビオトープ管理士の資格の種類…などから会員をピックアップし、人物に焦点を当てたこの冊子を作成しました。

ビオトープ管理士とは、何を考えどのような活動を行っている人たちなのか、人柄やバックボーンなどとあわせてお読みください。



ビオトープ管理士の資格制度や制度創設の背景、資格試験の概要、私たち日本ビオトープ管理士会などについては、巻末をご覧ください。

ビオトープ管理士ってこんな人たち

vol.1

ページ

- ② この冊子で「ビオトープ管理士」を知ってください。
- ④ ビオトープ管理士になり希望の職に。ご自身が希望していた以上の仕事が出来ているという、
file.001 江崎 桂子 さん
京 都 府 学校法人近畿大学 管理部 技術員エクステリアデザイナー
2級ビオトープ計画管理士
- ⑥ 希望の職種に内定！ビオトープ管理士の資格が勉強や活動の客観的な評価になったという、
file.002 山川 将径 さん
石 川 県 石川県立大学 生物資源環境学部 環境科学科 学生
2級ビオトープ施工管理士
- ⑧ 造園業でビオトープ。伝統技術で甦らせ次世代に伝えたい原風景があるという、
file.003 岸野 純一 さん
鹿児島県 青楓緑化(株) 代表取締役
1級ビオトープ施工管理士
- ⑩ 寺社の環境×ビオトープ、伝統と最新知識の融合。県外からの受注も増えたという、
file.004 岩瀬 森の助 さん
岩 手 県 (株)山二 代表取締役
1級ビオトープ計画管理士 / 1級ビオトープ施工管理士
- ⑫ 建築業でラジオのパーソナリティ。水戸の空にコウノトリを再び呼びたいという、
file.005 川又 正寿 さん
茨 城 県 (株)リバーフットリノベーション 代表取締役
2級ビオトープ計画管理士 / 2級ビオトープ施工管理士
- ⑬ 森に寄り添った持続可能な暮らしを。林業で地域づくりに挑むという、
file.006 江尻 裕 さん
富 山 県 モリビオ
1級ビオトープ計画管理士
- ⑭ 生きものに詳しい市民からビオトープの専門家に。資格が後押しになったという、
file.007 岸 しげみ さん
神奈川県 茅ヶ崎野外自然史博物館 事務局長
1級ビオトープ計画管理士 / 1級ビオトープ施工管理士
- ⑮ ビオトープの会社を興したお母さん。「こども環境管理士」の資格も持つという、
file.008 轟田 鈴子 さん
神奈川県 横浜環境保全緑化(株) 代表取締役
1級ビオトープ計画管理士
- ⑯ 学校ビオトープの請負人は社会科の先生。取り組みはふるさとづくりであるという、
file.009 林 宗弘 さん
愛 知 県 豊田市立西広瀬小学校 教諭
2級ビオトープ施工管理士
- ⑰ 身近からのビオトープネットワーク。定年後はビオトープで社会貢献したいという、
file.010 見知 知夫 さん
東 京 都 ジョージア園芸(株) 取締役 技術部長
1級ビオトープ施工管理士
- ⑱ 公務員でビオトープ管理士。資格を取ることで自然の見方が変わったという、
file.011 吉迫 由美 さん
長 野 県 千曲市役所 企画政策部 企画課
2級ビオトープ計画管理士
- ⑲ 全社を挙げて資格の取得を。自然を残す建設業に変えていきたいという、
file.012 (株)加藤建設 のみなさん
愛 知 県 建設業
1級ビオトープ施工管理士 / 2級ビオトープ計画管理士 2 名
1級ビオトープ施工管理士 4 名
2級ビオトープ計画管理士 / 2級ビオトープ施工管理士 4 名
2級ビオトープ施工管理士 120 名
- ⑳ 「ビオトープ管理士」制度創設の背景とその概要
- ㉑ ビオトープ管理士の資格が活用されている事例の一部
- ㉒ 私たち「日本ビオトープ管理士会」について

自分の幅が広がった！ 希望していた以上の仕事ができる



えさき けいこ

江崎 桂子 さん

京都府

学校法人近畿大学 管理部 技術員エクステリアデザイナー
2級ビオトープ計画管理士

「将来の夢は、環境教育のプログラムを充実させて、日本中の幼稚園や保育所、小学校などにそれを普及し、実践してもらうことです」



新しくつくられる公園で「再生の森づくり」。ここで開かれる環境教室で、子どもたちにレクチャーを行います。

ビオトープ管理士となり、自然を守る仕事に就くという夢を叶えた江崎さん。周囲の理解や期待も大きく、ビオトープの設計・施工から環境教育まで、自身が希望していた以上の仕事が出来ていると言います。

子どもの頃から自然が大好き 職業とする夢を叶える

子どもの頃から自然が好きだった江崎さん。自然を守りたい、自然を守る仕事がしたいとの思いから近畿大学農学部に入學、そこでビオトープ管理士の資格があることを知りました。その後、インターンシップで環境アセスメント関連の会社に赴いていた折、社員の方から自然を守る仕事をしたければビオトープ管理士が有効だと聞き、ならばということで受験し合格。在学中にNPOの理事を経て、母校の近畿大学にエクステリアデザイナーとして勤めています。

あまり聞き慣れない言葉ですが、エクステリアデザイナーというのはどのようなお仕事ですか？「いわゆる技術職で、建物の外部（おもに植栽関係）の空間をデザインします。たとえば、小学校を設計する場合の校内の植栽をどうするか、ビオトープをどう設置するかといったことを考えたりする仕事です」。発想次第でいろいろ工夫が出来る、面白そうなお仕事ですね。

「人と自然の架け橋に…」 専門性を活かせる技術員に

しかし、インターンからそのままアセスメントの業界には進まなかったのですか？「それも考えたのですが、大学が好きだったことと、NPOで環境教育を実践するなかで、人に伝える楽しさを感じ、人と自然の架け橋になりたいと思うようになりました。その中で、専門性を活かせる大学の技術員として採用が決まりました」

エクステリアデザイナーとして活躍しつつ、環境教育にも関わることが出来ているという江崎さん。現在は近畿大学附属小学校で、ビオトーププロジェクト『ホタル復活活動』にも携わっています。このプロジェクトでは、ゲンジボタルの飛び交っていた30年前の自然環境を再生し、いずれは再びホタルを定着させるという大きな目標のもと、ビオトープの設計、施工を担当。児童によるホタルの繁殖活動や環境教育、観察会なども実施しています。

今では生態観察が出来るほどまで自然が戻り、前回の全国学校・園庭ビオトープコンクールで日本生態系協会賞を受賞しました。「学校ビオトープの取り組みは継続させるのが大切。基本的には先生や児童だけでなく、保護者や

地域のNPOなど沢山の人が関わりサポートする体制を整えることがベストだと思っています。そのため、プロジェクトの発足当初から多くの人に関わっていただき、取り組みを進めています」

継続性も見据えた取り組みですが、ビオトープ管理士となったことで業者の方とのやりとりもスムーズになり、専門家の意見として耳を傾けて貰えるようになりました。仕事でビオトープの審査やアドバイザー、授業も担当し、自分の幅が広がったと江崎さんは言います。「ビオトープ管理士として、自分の希望していた以上の仕事が出来ています」

次は1級にステップアップ 将来の夢は「日本中に普及、実践」

さて、ビオトープ管理士として充実した毎日を過ごされていますが、今度は1級ビオトープ管理士の試験に挑戦されるのか。1級は責任者レベルの実力が想定され、現場の経験は2級以上に重要視されます。そのため、さらに経験を積み、もつとひきだしを増やしていきたいと今日も頑張る江崎さん。「日常的にビオトープを意識し、どうすれば良い方向にすることが出来るのかをイメージしながら取り組んでいます。現場の声と顔を大切にして、自然の声の代弁者

として設計を行い、人も含めた生きものの空間をデザインしていければ」

ビオトープづくりと人づくり、ハードとソフト。いずれもこれからのまちづくりには欠かせない要素ですよね。「将来の夢は、環境教育のプログラムを充実させて、日本中の幼稚園や保育所、小学校などにそれを普及し、実践してもらうことです」自然の再生や保全を行う仕事に就きたかったという江崎さんの夢。これから先の社会を担う子どもたちにもきつと受け継がれていくことでしょう。



近畿大学附属小学校の学校ビオトープ「まなびお」づくりのようすと、完成間もない頃の春の全景（左下）。ゲンジボタルの再定着を目指し30年前の自然環境を再生しました。設計と施工、授業まで、専門家であるビオトープ管理士として責任を持って携わります。

希望の職種に内定！ 勉強や活動の客観的な評価に



やまかわ まさみち
山川 将径 さん

石川県

石川県立大学
生物資源環境学部 環境科学科 学生
2級ビオトープ施工管理士

ご覧くださいこの輝く笑顔。このような若者が増えていったなら、世の中はもっと素敵になっていくように思います。



虫捕りへ GO！生きもののことがもっと知りたいという純粋な気持ちを、いつまでも胸に。

合格するためのサークルで 体験的にビオトープを学ぶ

さて、職といえば学生の就職活動。2級受験者の4割近くを占める学生ですが、その一人、山川さんはビオトープ管理士の合格を目指すサークルに所属。就活では客観的な評価として資格が役立ちました。とはいえこれは普段の活動があつてのこと。経験こそが力となるのです。

親戚が牧場を営むなど、幼い頃から生きものに触れる機会が多かったという山川さん。虫を捕るのが大好きな少年でした。生きもののことがもっと知りたいたと石川県立大学の生物資源環境学部に進学、生態学についてより深く勉強するため『ビオトープ研究会』に入りました。とりわけ興味があるのは野生生物の保全です。何か関連する資格が取りたいと思っていたところ、先輩からビオトープ管理士という資格を教えてもらいました。というのも、そもそもこの研究会はビオトープ管理士に合格することを目的にしているサークルなのです。

山川さんの通う学部は、ビオトープ管理士資格試験の一部が免除される「一部免除認定校」にも認定されています。しかし山川さんは免除のない通常受験で受験し、一発で合格。サークルでは普段、学校周辺の生きものを調査し、ビオトープに関する情報発信などの活動を行っているそうですが、そうした体験的

※ビオトープ管理士資格試験には、他部門受験、筆記試験合格者の再受験（1級のみ）など、試験の一部が免除される制度がいくつかあります。そのうち「一部免除認定校の学生・卒業生の受験（2級のみ）」は、指定された学校・学部の生徒や卒業生が受験する際、条件を満たしていれば、全科目で択一問題の半分が免除される制度です。

な活動がしっかりと知識や考え方を身に付けるコツなのかも知れませんがね。

資格を取ったことが活動するうえでプラスになった

山川さん、サークル活動について、もう少し詳しく教えていただけますか？「ビオトープ研究会では、生きものの調査をして、その結果のまとめや標本づくりを行い、展示発表するという活動がメインです」社会に開いた取り組みもあるそうですね。「大学の近くの幼稚園や小学校で、子どもたちを対象にした観察会やプレゼンテーション、自然体験のプログラムなどを実施しています」

プログラムには、バッタやチョウを探してビンゴを完成させるネイチャービンゴ、木の葉カルタなど、楽しく自然体験が出来るようなメニューが並びます。しかし、相手が子どもならなおのこと、教えるというのは難しくないですか？「資格を取るために勉強したことで知識が増えたことに加え、資格をとってからとは言うことが出来ないの、厳密さを意識するようになりました。資格を取ったことで変わったいろいろなことが、活動するうえでプラスになっていると思います」

少し話を戻しますが、フィールドでの体験はとても大切です。特に学生のみなさんにはより積極的に自然と触れ合っていたらければ、とは試験を実施する日本生態系協会の談。というのも、座学で得られる知識と同等に体験が重視されるビオトープ管理士にあつて、ごく普遍的な生きものの名前や生態を知っておくことは、志を同じくする方々との間に最低限の共通言語を持つことになるのです。（もちろん、試験には必ず出題される事柄でもあります）

履歴書にビオトープ管理士仕事を通じて社会に貢献出来れば

学生でいられる時間は残り僅かですが、その中でビオトープ管理士として取り組みたいことはありますか？「これまでの活動や得られたさまざまな情報を、ブログなどで発信したり、活動範囲を広げることで、身近な生物や生態系の大切さをより多くの人に知ってもらえたらと考えています。そして、ビオトープ研究会が未永く続いていけば」

卒業後は環境アセスメントも行う建設コンサルタントの会社に就職が決まったという山川さん。就職活動の際、履歴書にビオトープ管理士と書くことで、きちんと勉強したのだと認識してい

ただけたよう。これも、普段の活動があつてこそのこと。「ビオトープ管理士として活動してきたことが評価されて、希望の職種で内定をもらうことが出来ました。人々の暮らしを守り、生物を守っていく、共生の世の中になるように貢献出来ればと思います」

ゆくゆくは1級ビオトープ管理士として活躍出来るよう頑張りたいという山川さん。彼のような逞しい学生が増え社会に羽ばたいていくことを考えたなら、日本も世界もこれからどんどん良くなっていくのかな、という希望を持っているように思います。



学園祭での発表と大学ビオトープの整備のようす。「身近な生物や生態系の大切さをより多くの人に知ってもらえるよう活動が出来たら」



幼稚園での活動。ここで学んだ園児たちが自然を大好きになり、やがて大人になって次の世代にも…良い循環になっていけば嬉しいです。

伝統技術で甦らせ次の世代へ！ 伝えたい原風景がここにある



岸野 純一 さん
青楓緑化(株) 代表取締役
1級ビオトープ施工管理士
鹿児島県

自社の休耕田でビオトープの管理作業。従来良しとされていたように一辺倒に刈れば良いのではなく、生きものの視点で刈る草の種類や刈り方、刈る場所などを考えなければなりません。



メダカの学校岳の池での活動。ビオトープ管理士の資格を取得する以前からのライフワークです。

次はベテランの方。鹿児島県で初の1級ビオトープ施工管理士だった岸野さんは、技術士との相乗効果もあり専門性を高く評価され、県内のパイロット的な環境事業を委託されました。日本の原風景を再生し次世代に伝えていくこと、それが願いです。

世界の先進事例を見た転換点 技術士とともにトライ

造園業に携わり、かつてはゴルフ場を造る仕事が多かったという岸野さん。「自然を守っている」と思っていたが、今にして思えば実に多くの自然を壊してきたと思います。その当時は、自然とはどういうものなのか、あるいは自然を守るの意味、自然の守り方などが、まだよく知られていなかった時代。同じような思いを抱いている方は多いのではないのでしょうか。

岸野さんはもともと興味があったこともあり、自然環境に関する研究会に所属していました。そこで知り参加した日本生態系協会のツアー『欧州ビオトープネットワーク調査団』では、イギリス、スイス、ドイツを巡り、ビオトープ事業の先進的な事例などを目の当たりに。大きな転換点となりました。

その折にビオトープ管理士の資格制度が創設されることを知り、受験。「技術士の建設部門にも挑戦中だったため、勉強は環境への知見を高めるうえで相

乗効果があつたように思います」 実際、1級ビオトープ管理士と国家資格である技術士の両方にトライシ、相乗効果を狙う方は多いと聞きます。岸野さんもその一人でした。

合格したことがニュースに そして専門家としての活躍

その後何度かの挑戦を経て合格した岸野さんは、地元・鹿児島県で初の1級ビオトープ施工管理士ということもあり、新聞などで話題に。「ビオトープ管理士として高く評価していただき、学識の委員や、アドバイザーとしての関わりが多くなっています」 ニュースになったこともあってか、『地域用水環境整備事業』『生物多様性対応基盤促進パイロット事業』といった県の事業の学識委員、始良市の環境基本計画策定にあたっての審議委員長や、激甚災害から復旧した甲突川に関する環境整備委員会のアドバイザーを、ビオトープ管理士の立場として委嘱されました。いずれも、人と自然の共存を取り計らう、重要な事柄です。

「また、1級のビオトープ管理士と技術士の資格を持つことで、前述のパイロット事業におけるビオトープの設計や施工、現場での指導、技術管理など

の仕事を委託されました。甲突川河川の草刈りの手法を調査・研究するための試験施工なども」 相乗効果は資格の取得に向けた勉強だけではなく、こうした先進的なお仕事にも。専門分野を確立することは、他の方には真似の出来ない大きな強みとなるようです。

ところで近年、県内の行政機関における河川、耕地、林務などの部署では生物多様性への認識が高まりつつあり、それに伴って、ビオトープ管理士もより評価されつつあるのだそう。そのような事業にはビオトープ管理士として積極的に関わっていききたいという岸野さん、お仕事以外にも、社会貢献としてさまざまな活動をしています。たとえば、ビオトープ管理士に合格する以前から続けている、地域の環境団体が所有するビオトープの維持管理作業や修復作業のサポートは、いわばライフワーク。日本ビオトープ管理士会の鹿児島支部『ビオトープかごしま』でもメンバーとして活躍しています。そのようなフィールドでの活動の経験も、業務のなかでも活かされているのですね。

心を惹かれるの原風景は 「持続可能性」の重要なポイント

「私の夢は、日本の失われつつあるもの

を描き続ける画家の原田泰治さんがスケッチしにやって来てくれそうな、原風景を再生することです」 そのような環境に育った者でなくとも、なぜかしら心を強く惹かれる日本の、地域の原風景。それは単なるノスタルジーに留まらず、自然と共存する持続可能なまちづくり・くにづくりを行ううえでの重要なポイントでもあります。

「当該地の特性やポテンシャルを深く探求して、それを活用するような提案を心がけたい。その際は、自然の摂理にかなっている伝統技術の活用が優位です」 脈々と息づく伝統技術、それもそのはず、伝統は地域の自然の上に成り立ち、必要以上に自然に負担をかけないもの（そうでなければ絶えているはずです）。そのような伝統技術をもつて残されたふるさとの原風景を甦らせ、次の世代に伝えていきたいという岸野さん、失礼ながら、懐かしく暖かい日本の風景に描かれる人物たちにどこかしら似ているような気がします。

「日本らしさ、ふるさとらしさなど、その片鱗が僅かでも残されている今ならまだ、らしさを再生し取り戻すことは十分に可能だと思っんです」



有里ホタルの里(左)と、丹生附休耕田ビオトープ(右)。どちらも懐かしさと暖かさを感じる日本の原風景ですが、それは、自然と共存する持続可能なまちづくり・くにづくりの重要なポイントでもあります。

社寺の環境×ビオトープ！ 資格を活かす、資格で生きる



いわせ もりのすけ
岩瀬 森の助 さん
(株)山二 代表取締役
1級ビオトープ計画管理士 / 1級ビオトープ施工管理士
岩手県

盛岡天満宮にて。境内には、都市部にあつてはたいへん貴重な自然が残されています。そこにビオトープという新しい概念を取り入れ、エコアップを図ることで、ビオトープネットワークの拠点とすることが出来ます。



自然のために何かをしたいという意志と、元来のなりわいとの融合。それは、長年にわたり培われた知識や技術、伝統と、ビオトープという新しい概念の融合でもありました。資格を活かし資格で生きる、とても羨ましい岩瀬さんの事例です。

自然のために提案出来るのでは—
資格取得を目指したわけ

朝の連続ドラマ『あまちゃん』で大注目の岩手県。その舞台は海なのですが、今回は山のお話です。

素敵なお名前のイメージどおり、1級ビオトープ管理士の岩瀬さんは家業の山林業に従事しています。木材の輸入が自由化されて以降、林業はとても厳しい状況に置かれているのですが、岩瀬さんの心を痛めているのはそれだけではありません。止まらない自然破壊です。

首都圏などとは異なり、見渡せば豊かな「みどり色」のものが目に映る東北地方ではありますが、問題はその「みどり」の中身。自然とより共存すべき農業や酪農などの第一次産業は、まるで工場のように近代化され、自然への負荷は留まるところを知りません。もともとその地域にあった「本当の意味のみどり」である自然、ビオトープとそこに成り立つ健全な自然生態系は、一刻と失われているのです。何とかしたい、その思いで樹木医などいくつもの関連資格をすで

に取得し活動していた岩瀬さんは、ある時ビオトープ管理士の資格に出会います。「自然が失われていくことに対していろいろな提案が出来るのではないかと、思い、受験しました」。そして、合格率が20%程度という難関の1級ビオトープ管理士を、施工部門、計画部門とも取得したのです。

意志となりわいの融合 県外からの受注も増えた

現在、岩瀬さんは、社寺境内の環境整備を中心にお仕事をしています。境内や裏山、社寺林・鎮守の森などには、樹木を中心とした貴重な自然が残されていることが多くある一方、残念ながら生物の多様性が著しく失われてしまったものも多いのだそう。そこで岩瀬さんは、長年にわたり培われた知識や技術、伝統に「ビオトープ」という新しい概念を取り入れ、整備の提案や作業を行っています。

「会社を立ち上げて5年ほどですが、ビオトープ管理士の資格を取ったことで、県外からの受注も増えています」環境の時代を迎えたと言われていると思いますが、実際のところ、反響はどうでしょう？「社寺でも自然に理解や関心のあ

る方には受け入れていただけるし、特に世代交代した比較的若い方々には興味を示していただいています」

そうになると、あやかろうとする同業者も。しかしそこはオリジナルの岩瀬さん、まだまだ追従を許しません。医師や弁護士でも同じですが、黙っていても仕事の方からやって来るとい時代はとくに昔。免許や資格を活かせるかどうかは本人次第、まさにその好例に思えました。何よりも、自然のために何かしたいという意志と、元来のなりわいとを融合させられるというのは、社会の一員として羨ましい限りです。

しかし、岩瀬さんはここに留まらず、更なる展望を持っています。「今後は、林業の現場でビオトープを重視した作業が進められていくよう、研究や研修、提案も行っていきたいと思っています」

岩瀬さんの活躍で見た ビオトープ管理士に必要なこと

ところで、岩瀬さんの名刺にはたくさん

の資格や多岐にわたる事業内容のほか、「行政書士」も？ すっかりこの道一筋の方なのかと思ひ込んでいたが、これで合点がきました。実はこのことは、ビオトープ管理士に必要な要素でもあるのです。

きものに関する知識や考え方、技術的なことはもちろん、いつけん無関係に思える法律や制度、条約などについても出題されます。なおかつ総合点ではなく、択一問題で言えば、生態学、ビオトープ論、環境関連法、専門科目(計画部門または施工部門)の試験科目それぞれで基準をクリアしていなければ合格することが出来ません。つまり、自然に関する資格ではあるものの、たとえば生きものだけにやたらと詳しいだけではビオトープ管理士になることが出来ないしくみになっているのです。それはなぜか？

世の中のルールである法律や制度を理解してはじめて、知識や技術を充分に活かすことが出来るからです。

近々、論文を発表したいという岩瀬さん。内容は、人工造林補助金の変遷の法的分析と、人工造林の植栽に対するビオトープの観点の導入提言。木材供給だけではなく生物多様性の基地としても重要な森林に、ビオトープという新たな視点を取り入れ、それに沿う事業については特別の補助金を加算するなどしてより良い森づくりの動機付けをしてはどうか、というものです。

知識と技術と志。現場から提言や発信が出来るというのは、やはりビオトープ管理士である岩瀬さんならではの。



啄木も歌に詠んだという狛犬とともに。鎮守の森を守り自然と伝統を守るのが、岩瀬さんの仕事です。



安全確認も怠らず。作業やイベントを行う際には、現場や道具などの事前チェックから万が一の場合の対応まで、細かく気を配るのも仕事です。

現代の水戸学！ 「ゴウノトリを再び水戸の空に」

かわまた まさとし

川又 正寿 さん

(株)リバーフットリノベーション 代表取締役
2級ビオトープ計画管理士 / 2級ビオトープ施工管理士

茨城県



ラジオで発信！その素敵な声で、自然の楽しさや大切さ、自然を守る方法などが、多くの方々に伝えられています。

自然を愛し、子どもたちに自然を残して、明るい未来を手渡していきたい。まさに水戸学の敬天愛人、そんなサムライの心を持ったビオトープ管理士がいました。ラジオのパーソナリティでもある川又さんが、その声で水戸にゴウノトリを呼ぶ日も遠くはありません。

偶然か？必然か？ ビオトープ管理士との出会い

「マーサー川又」とこと川又正寿さんは、建築業に携わる傍ら、ラジオのパーソナリティとして活躍するビオトープ管理士。毎週金曜午前の番組『River Foot Style』(FMぱるるん)で、その自然体でリラックスした声を聴くことが出来ます。川又さんは、ラジオを通じて将来を担う子どもたちに何を残していくか、何を発信していくかと考えるなかで、迷わず「自然環境の再生」というテーマを選んだそうです。その経緯は1997年に遡ります。

京都で開かれていた気候変動に関する国際会議と、採択された『京都議定書』。当時そうした動きをテレビで観ていた川又さんは偶然(今から思えば必然ですね)、ビオトープという言葉に出会います。さらに調べていくうち、ビオトープ管理士の資格があることを知りました。もともと自然が大好きだったこともありすぐに受験しましたが、この時は不合格。残念でしたが、ビオトープ

※FMぱるるん(茨城県水戸市)『RIVER FOOT STYLE』毎週金曜10:15～10:30

PCやスマートフォンを通じて100局以上を視聴出来るサイマルラジオでなら、全国どこでも聴くことが出来ます。

に基づいた考え方や出題内容には、これまで無かった新鮮な驚きや感動があったと言います。

環境問題メインに方向転換 広がるビオトープづくり

近年では言葉自体も普及し、ビオトープと呼ばれるものが増えてきましたが、これについて、川又さんにはひとつ思うところがあります。「ビオトープ管理士が関わっていない取り組みには、逆に自然を破壊してしまっているものが多い。自然のためにやっているつもりでも、きちんとした知識や考え方が身に付いていないと、自然を壊してしまうことがあるんです」これは、日常的に自然と触れ合ってきた川又さんだからこそ気が付いたこと。「そういった状況を何とかしたいという想いを持ち、ビオトープ管理士に合格することが出来ました」

番組は当初、釣りをメインとしたアウトドアの話題が中心でした。しかし、自然のこともっと知ったもらいたい、好きになつてもらいたいという意図とは裏腹に、ゴミ捨てや駐車の問題など、モラルのない人が増えてしまったという反省も…。そして方向転換し、環境問題がメインの番組づくりとなりました。

「また、講演を聴いてくださった園長

先生の依頼で、幼稚園の庭を『園庭ビオトープ』にチェンジ、井戸を利用して水が一年中循環する水辺のビオトープを創出しました」ほか一般のお宅では、震災で崩れてしまった外構えを石垣に、モルタルを一切使わず崩れ積みにして、〃二ホントカゲの六本木ヒルズ〃として隙間を提供するなど、実効性にユーモアをプラスしたビオトープづくりで活躍されています。

「同じ想いを持つ仲間を」 かつての水戸学のように

そんな川又さんには夢があります。ホームタウンである水戸の空に、コウノトリを再び羽ばたかせること――。

「昭和51年には、当時21羽しか残っていなかった野生のコウノトリが、水戸までやって来ています。水戸には潜在的にコウノトリの好む地理的要因や環境が揃っているのでは」番組では、そのためにどうしたら良いか、さまざまな提案も発信しています。「涸沼（ひぬま、茨城県中部、那珂川水系の汽水湖）の自然を復活させることが重要だと思っています。そして、県内全ての河川を多自然に変化させたい。自然が回復していけば、水戸の空にコウノトリが復活するのではないかと思います」

関東地方では、広範な県や市町村がタッグを組み、コウノトリをシンボルとした自然再生とそれによる地域振興という、壮大な取り組みが始まっています。そのようななか、川又さんの発信はこれからも続きます。「同じ想いを持つ仲間を増やしたい。かつて明治維新の原動力となった水戸学のように、水戸のビオトープ管理士が世の中のしくみを変える力になっていけばと思います」自然を愛し、子どもたちに自然を残して、明るい未来を手渡していく。まさに敬天愛人、サムライの心を持ったビオトープ管理士がここにいました。



園庭ビオトープづくり。建築士としての専門的な技術と、ビオトープ管理士としての知識や考え方の融合です。



庭先のちょっとした工夫“ニホントカゲの六本木ヒルズ”。こうした多孔隙の空間は、多くの野生の生きものにとって重要なビオトープです。

森に寄り添った持続可能な暮らし 林業で地域づくりに挑む！



えじり ゆたか
江尻 裕さん
モリビオ
1級ビオトープ計画管理士
富山県

カシノナガキクイムシをラッピングにより防除。一般を対象とした環境プログラムで体験してもらい、新しい森づくりへの理解を広げています。



冬期林分調査のようす。積雪深が3mを超えるこの土地では、従来とは異なる新しい森づくりが必要と思いました。

2級から1級にステップアップ。昨年度、富山県で初の1級ビオトープ管理士となった江尻さん。環境の時代にあふらしい森づくりを想い起業、それはまさに、自然と伝統が共存した持続可能な地域をつくることなのでした。

自然豊かな山村に移住、 森林の在り方について考える

約15年前、自然が豊かな土地での生活と子育てに憧れて公務員生活を辞め、太平洋側から富山県に移り住んだ江尻さん。標高700m、森林率97%のこの利賀村（現 南砺市利賀村）は、イヌワシが飛来しクマタカが繁殖する素晴らしい山に囲まれています。そこで森林組合の仕事に就いたのですが、方向性の見えない「森づくり」にふつと疑問が。雪深さから考えれば本来、利賀村ではスギ人工林の経営は不向きなはず。それにもかかわらず、建築用材の生産に偏った画一的な森林管理が行われていたからです。

「森林の在り方を考え直さなければ」そのための手がかりが必要だと強く思い始めたとき、ビオトープ管理士の資格があることを知りました。持続可能な社会にとって最も重要な基盤である、健全な自然生態系。そして、生態系の健全さの指標となる、生物の多様性。人と森林の関わりを考えるうえで有効な概

念であるとき江尻さんは感じたのでした。

森づくりの新しいかたち アイデアと行動の人

そして昨春、江尻さんは個人企業『モリビオ』を立ち上げました。業務内容は森林管理と森林資源の利活用が主ですが、基本理念は「森に寄り添った持続可能な暮らしを提案する」。これまで行われてきた森づくりとは異なります。「森林組合から請け負う森林管理では、通常なら刈り払われてしまうたくさんの種類の広葉樹を、有用樹を中心に刈り残し、森の中層、下層に多様な植生を維持するよう提案、実行しました」

ご存知ですか？一般的な人工林では植えたスギ以外は全て刈り払われてしまうため、生物の数も多様性が極端に低く、鳥の鳴き声さえ聞こえてこないような寂しい空間です。しかし江尻さんの森は自然との共存を目指すもの。提案を受け入れてくれた組合の懐の深さも素晴らしいと思いますか？「環境プログラム」の提供や講演などを行って、地域の豊かな森林生態系を維持することの意味や、これを思慮深く利用すれば地域の持続可能性が向上すること、そしてその意義について、理解を深めてもらえ

るよう努力をしてきました」その対象は、地元の子どもたちから一般の方々、団体まで幅広く、プログラムの内容も実に多岐にわたります。

「また、刈り残した低木には、薬酒の原料にもなるオオバクロモジが含まれています。それがどのくらいあるのか資源量を調査し、ここまでなら大丈夫という持続可能な利用方法を検討したうえで、今年の春に初めて出荷しました」持続可能な森づくりと森の賢い利用。こうした取り組みがやがて地域の経済を潤し、持続可能な地域がつくられていくのです。広域的なものごとを捉える、ビオトープ計画管理士ならではの視点です。

「賢い利用」と「影響の低減」、 両輪で持続可能な地域づくりを

ところで、昨年度の試験で2級から1級へとステップアップした江尻さん、何度かのチャレンジを経ましたが、実は県内初の1級合格者だったのです。このことは新聞などでも取り上げられ、一躍時の人に。ビオトープの考え方やビオトープ管理士についての普及活動にも使命を感じているそうですが、1級ビオトープ計画管理士として今後取り組みたいことが、いくつかあるそうです。

まずは、再生可能な資源である「生態

系サービス（自然のめぐみ）」を持続的に利用するしくみづくりについて。利賀村の豊かな自然生態系には、連綿と続けられてきた人々の営みが深く関わり、それにより維持されてきたところがあります。しかし、先の合併以降は過疎化が急激に進行し、多様であつた生態系が維持出来なくなってきたとのこと。「前述のクロモジのほか、ススキやカリヤスの草原を再生し、屋根葺き用のカヤの生産にも取り組み始めています」利賀村に隣接する五箇山は、合掌造りで有名な世界遺産。自然と伝統が共存した美しい地域づくりは、ヨーロッパなどでも進められている最も新しい地域づくりの方法なのです。

それと、土木などの環境改変工事による、生態系への影響の低減について。「中山間地域の多くがそうであるように、利賀村も公共工事に強く依存しています。生態系サービスに根ざした地域づくりを急ぐ一方で、林業や土木建設の現場でいま発生する生態系への影響を、出来るだけ抑える努力が必要です」事前調査やモニタリング、事後評価などの必要性を訴えるとともに、低コストな手法・手順のマニュアル化に、関係各所と協働して取り組んでいきたいと江尻さん。その目は、遠い将来をも見据えています。



オオバクロモジの収穫(左)と茅刈り(右)のようす。生態系サービス(自然のめぐみ)を賢く持続可能に利用するという考えは、生物多様性条約の締約国会議でも話し合われる、国際的にも重要で基本的な事柄です。

1級取得、生きものに詳しい市民から ビオトープの専門家に！



岸しげみ さん

茅ヶ崎野外自然史博物館 事務局長
1級ビオトープ計画管理士 / 1級ビオトープ施工管理士

神奈川県

インターネット配信のテレビ番組『湘南 nature チャンネル』では企画とMCを担当。写真は、子どもたちと自然について、地域の中学校の校長先生たちと。



谷戸の保全管理作業のようす。現在では、盛り土や畑化から守るため、1,400 m²の湿地を借り、保全管理の研究や実習も行っています。

意見が認められるよう

ビオトープ管理士の資格を取る

子どもの頃から自然が大好き。自然の中で遊び自然からいろいろなことを学んだ岸さんは、大人になっても観察会を開くなど、多くの方々に自然の素晴らしさを伝えていました。

そんな1990年のある日、思いもよらぬ光景が。観察会で訪れた谷戸（地域によっては谷津、谷地とも）が埋め立てられていたのです。残念なことに当時はいたるところで谷戸が埋められていました。利用価値が低いとして都市化の波から取り残され、多くの野生の生きものたちがぐらしている、あるいは逃げ込んでいる谷戸。「このまま失われてしまったら、生きものも私たちも困ってしまう」岸さんたちは立ち上がり、自然を守るために活動を始めました。

そのようななかで岸さんが資格を取ろうと思った理由は明確です。「協議会に呼ばれるようになって、生きものに詳しい市民」ということでは面識の無い方々、特に行政に対してインパクトが大

活動のためにビオトープ管理士の資格を。そして1級の肩書きを2つとも取得した岸さんは、一市民としてではなく「専門家」として、よりパワフルに幅広く活動されています。

※ 岸さんをはじめとする茅ヶ崎野外自然史博物館（神奈川県茅ヶ崎市）のスタッフによる自然情報番組『湘南natureチャンネル』は、月1で放送予定。↓こちらで過去の放送をご覧ください。
<http://shonan-stream.ceramic-boy.com/category/nature/>

きいとは言えません。そこで、動植物をはじめ幅広い知識を持った専門家として臨み、意見が認められるよう、ビオトープ管理士の資格を取ろうと思ったのです」

ズバリ、ビオトープ管理士となつて良かったことは？

そして、1級ビオトープ計画管理士と1級ビオトープ施工管理士の資格を取得した岸さん。1級の、しかも計画・施工の両部門をお持ちの方は、全国でもまだそれほど多くはありません。「資格を取って良かったことはまず、出題範囲が広いのでいろいろな分野の基礎が身に付いたこと、行政マンの気持ちが分かるようになったこと、そして、1級を両部門とも持つと周りの対応が変わったことです」

岸さん曰く、特に3つ目の効果が大きいそう。「肩書きがなければフツーのおばさんですが、名刺に2つの1級ビオトープ管理士を並べているだけで、一目置いてもらえるようになりました。現在も茅ヶ崎・藤沢の谷戸の保全のため協議会等に自然団体枠で呼ばれています。が、発言は専門家のものとして受け取っていただけということがありがたいです。また、文教大学湘南総合研究所の客員

研究員としてお声がけいただいたこと、藤沢市発行の自然関係の書籍を2冊書かせていただいたことは、1級ビオトープ管理士の肩書きがあつたからだと思っています」とはいえ、ここまで資格が活かされているのは、やはり岸さんの自然に対する情熱と行動力があつてこそ。

ちなみに、ビオトープ管理士、特に1級には、自然や環境に関する何かしらの活動をされている方がとても多いというのでもまた大きな特徴です。ここまで広範な事柄を知っている必要があるのか、もつとカンタンな試験でも良いのではないか、総合得点で可否を見れば良いのではないのか……など言われることもままあるビオトープ管理士の試験ですが、現場やフィールドでの経験・体験を重視し、“本当に活動出来る人が認証されているのだということ”を、現実が証明しているのではないかと思われます。だから、ビオトープ管理士はすごいんです。

知識や情報を還元 すごい仲間が増えていけば…

ビオトープ管理士として得た知識や経験、生きものに関する情報などを多くの方に伝えなければいけないという想いから、現在ではインターネットTV番組『湘南NATUREチャンネル』を制

作・配信している岸さん。その他にも、野外を展示物に見立てたウェブサイトを作り、投稿や質問を通じて地域の自然に関する情報を蓄積しています。もちろん、生の自然に直に触れる、自然大好き人間を増やすための観察会も。今年から、1400㎡の湿地を借り、保全管理の研究や実習も出来るようになりました。生きものについては各分類群のスペシャリストがおり、本格的なインタープリター(案内人)やビオトープ管理士を目指す人にも人気となっています」

総合的な学習の時間への対応のほか、講演会の講師やパネリスト、自然調査などの依頼もあり忙しい岸さんですが、今後の展望は？「いろいろな地域の自然、地域の生物多様性を守りたいと思います、その方法の一つとして、私たちが長い間蓄えてきた自然の事象や先進的な取り組みなどを、ネットTVを通じて全国の有資格者にお伝えしたいです。そして、それぞれが得意分野を持ち寄って情報交換出来るような場となり、ビオトープ管理士自らがさらに資格の価値を高め、もつと世の中に必要とされる資格に出来れば、やっぱりすごいな、ビオトープ管理士はと言われるような仲間が増えていけば嬉しいですね」



原点とも言うべき観察会にて、マユタテアカネを見せる昆虫博士の中学生。次世代も着実に育っています。



地域の自然・環境に関する豊富な知識をもとに、冊子などの執筆依頼も。ビオトープ管理士として伝えたいことがたくさんあります。

子どもたちに伝えたい！ ビオトープの会社を興したお母さん

もう一つ神奈川県。自然の中でたくさん遊び、自然の本質や大切さを体験的に知った鶴田さん。こども環境管理士の資格も取得し、新しい会社を立ち上げ、将来世代のために幅広く活躍されています。

海・山・川…

逗子の自然に育まれ、母として

私たち日本ビオトープ管理士会の研修にて。資格を取得した後も勉強、自己研鑽は重要です。

幼少時からの環境教育は重要。依頼を受けた小学校での授業は、仕事でもあり生きがいでもあります。



鶴田さんは、生まれも育ちも神奈川県逗子市。風光明媚で著名人も多く住む素敵なまちです。庭師であつたお父さまの子育てはとてもユニークで、海・山・川で五感をフルに使い、いわば、自然が先生の体感教育を受けて育つたのだそう。「遊び道具の竹とんぼや竹馬、脚立などは全て父が作りました。今思えば、日本の伝統や文化は自然と密接に関係していることに、そのようなことを通じて気付いたのかも知れません。また、自然を知ることですと知識や生きる力が付くことを知りました」そして時は経ち、3児の母となった鶴田さんはこう思います。「人間の作る構造物は必ず壊れます。一方、自然のものは不動なものだと思いますが、その自然は失ってしまうと二度と元には戻りません。母として、そのことを未来を担う子どもたちに伝えていきたいと思っていました」

自然は私たちの生活を支えている大切なもの。そのことは、現代を生きる私

※『ビオトープ管理士資格試験』は環境教育等促進法に基づいて環境人材認定事業に登録されており、よって、ビオトープ管理士の有資格者は技術者としてだけではなく、環境教育の指導者としても公に認められています。（参考：環境省サイト「環境人材育成・認定等事業データベース」）

ただけではなく、子どもや孫たち、さらにずっと先の将来世代だって同じです。そのような想いを抱きつつ造園業のお仕事をしていた鶴田さんは、ビオトープや生物多様性という言葉が気になり始めました。調べていくうちにビオトープ管理士の資格試験を知り、挑戦してみることに。そして見事に合格、今の活躍に至ります。

米軍基地での提案 小学校での環境教育も

現在、米軍基地内の緑地管理をしている鶴田さん。「地域の固有種の育成や外来種の駆除などを提案し、実行しました」提案したことが採用されるなんて羨ましい限りです。「でも、基地はまだ生態系の視点による緑地管理ではないのが現状です」それは日本の自治体や国も同じ。しかし、世界は確実に生物の多様性を基本とした持続可能な社会に向け動いています。ビオトープ管理士としての挑戦はしばらく続きそうです。

一昨年にはもう一つ、自然の再生や保全、ビオトープに関する情報発信と具体的な取り組みを目的とする新しい会社を立ち上げました。「子ども環境管理士」にも合格したんです。データベ-

ス(有資格者の名簿)をご覧になった小学校から連絡があり、全学年を対象に環境教育の授業をして欲しいとの依頼を受けました」仕事としての環境教育。しかし、全学年ともなると発達段階もまちまちで準備もたいへんそう。「学年によつて構成を変えたり、言葉の表現方法を変えたり。また、理科と同じような内容にならないよう、触れる・嗅ぐ・目で見るなどの体感を重視した授業にしました」ちなみに、ビオトープ管理士は技術者としてだけでなく、*環境教育の指導者としても公に認められているのです。「子どもたちの反応や先生たちの意見を受けて順応的に内容を変化させるなど、1年生から6年生までの全クラスで授業することは難しくもあり

ますが、楽しい時間でもあり、とても勉強になりました」夏休みには自宅を開放して木工教室を開催、小学生や保護者のみなさんに自然のことを知っていただく機会づくりが出来ました。お仕事としてはもちろんですが、生きがいを感じられることは人生においてとても重要なこと。幅広く活躍されている鶴田さんは毎日がとても充実しているようですね。「生態学をきちんとした知識として、そして何よりも、このように体感として学ばせること

が大切だと思います。幼少時から教科として導入されることを切に願います」

子どもたちが誇れる地域に そして美しい地球へ

しかし、市の河川土木課や環境課にはビオトープ管理士の職員がおらず、環境の行動指針は生物多様性の視点を欠いたまま作成されていたためか、地域にはまだ学校ビオトープや園庭ビオトープは無いのだとか。「一方で、園庭や屋上でのビオトープづくりに関心を示され、地元の幼稚園からお声がけをいただきました。呼び掛けや行動が一つずつ発信力になり、子どもたちに大切なことを伝えていければ…」

そして生物多様性をテーマにしたレポートを提出したことがきっかけで市の環境審議委員会に選ばれた鶴田さんは、地域と将来世代のことを想い、ビオトープ管理士の立場から積極的に発言されています。「日本の真の美しさが伝統文化とともに歩み、逗子が子どもたちの誇りとなるよう、また美しい地球へとつながるよう活動していきたいです」

今後は、経済的に持続可能な事業活動、地域や市への情報発信、ボランティアなどをテーマとして、多くの人が活動出来るよう働きかけていくそうです。



分かりやすく人に教えるということは、それだけの知識や経験が背景にあり、かつ、きちんと整理されていることが必要。また、相手によって内容を作り替えるということも、そのようなバックがあってはじめて可能となります。

学校ビオトープはふるさとづくり！ 教師として、ビオトープ管理士として

さて、理系では馴染みの深いビオトープ管理士ですが、林さんは社会科の先生。学校ビオトープからまちづくりへ……。その視点は子どもたちのための「ふるさとづくり」でもありました。

「マニアック？いや、地域の自然を知るのは重要」

教科書だけで授業を進めることに抵抗があるという林さんは、現場に赴いて収集した資料をもとに内容を組み立てるというスタンスの、社会科の先生です。

以前は、生きものなどについて調べたりすることはマニアックだと思っていたそう。しかし、国際的な価値が認められラムサール条約湿地に登録された地元・愛知の藤前干潟や、お住まいの豊田市を流れる矢作川について勉強するうちに、考え方が変わりました。「実は身近な生きものが絶滅危惧種であったり、生態系の中で重要な役割を果たしていることに気付いたんです。地域の生きものや自然について知ることは、マニアックどころかとても重要だと思いました」

ビオトープを再生し環境大臣賞 ご自身もビオトープ管理士に

そして、^{*}全国学校・園庭ビオトープコンクールで国土交通大臣賞の受賞歴のある豊田市立上鷹見小学校に赴任、こ

いくつかの学校ビオトープづくりを経験した林先生。新たな赴任先・西広瀬小学校では、周囲を見て「このまま環境学習に活用出来る」と直感。地元の方々の協力もあり、地域で子どもたちを育てています。



はやし むねひろ

林 宗弘 さん

豊田市立西広瀬小学校 教諭
2級ビオトープ施工管理士

愛知県

※『全国学校・園庭ビオトープコンクール』は、学校ビオトープ・園庭ビオトープの普及を目的に、2年に一度開かれています。2013年度は8回目の開催。当会の会員であるビオトープ管理士も、審査委員として協力しています。

れが大きなターニングポイントとなりました。さすがに大臣賞だけあって、関わっている方々はみな知識も経験も豊富。なかにはビオトープ管理士の資格をお持ちの先生もいましたが、そのうちに林さん自身が中心的な立場に。活動をいかに維持していくか、いや、いかに発展させていくかということは、全ての受賞校に共通の悩みなのかも知れない――。そこで、悩みや課題を分かち合い活動をより前進させるため、近隣の受賞校に声をかけ、交流学習『ビオトープサミット』を開催しました。「完成時の高揚感をいかに次の段階に持つていくかという、一つの提示が出来たように思います」

次の赴任先、寿恵野小学校にも学校ビオトープがあったものの、9年間も放置され荒れ放題でした。一転して今度は「再生」です。当初、地面は踏み固められ、樹木は傷付き、池は外来種のアメリカザリガニでいっぱい。ボタンウキクサやオオキンケイギクなどの特定外来生物もキレイだからという理由で植えられていました。そこでまず林さんは、立ち入って良い場所といけない場所を決めてゾーニング。掲示板やおたより、フォトコンテストなどを通じて、子どもたちとともに啓発に努めました。さら

に、調査により絶滅危惧種・ホトケドジョウなどの存在を確認、周知のため歌やバッジを作って関心を高めました。そして、そのきらりと光るユニークな活動に加え、ビオトープの質の高さが評価され、前回のコンクールでは環境大臣賞に輝きました。

そのような経験と何度かの受験を重ね、同じ年、林さん自身はビオトープ管理士資格試験に合格。「ビオトープ管理士として認証されたことで、さらに自覚が変わったと思います。みんなを引っ張っていくんだと」ご本人曰く、試験ではあんなに苦しい法律関係が、皮肉なことに今、役に立っているのだとか。「周りを納得させる根拠になっていたります(笑)」

視点は学校から地域へ ふるさととはこんなに素晴らしい

ビオトープ管理士として、総合的な学習の時間では「環境」に取り組むことを働きかけているという林さん。現在は、中山間部の西広瀬小学校で教鞭を執っています。周囲には素晴らしい自然があるものの、子どもたちにはビオトープというものの認識が無いもよう。そこで、道を付けるなどして山に誘導し、子どもたちの自然との触れ合いを促し

ています。題して、登れる山『西広瀬・丸根山ビオトープ』。「多くの野生の生きものに会える麓では、トンボ池、ホタルの飛ぶ沢、ササユリが咲く山の保全活動に取り組みたいと思います」また、針葉樹の森では『森の健康診断』を実施し、生きもののために間伐活動を行う予定とか。「これら全てをビオトープと捉えて、学校を挙げて学習に生かしていきます」同校の伝統、38年続く水質測定を引き継ぎ、矢作川の小さな見張り番とも呼ばれる子どもたち。本来関係の深い川と山とがセットになり、新たな伝統になりそうですね。

しかし、展開はこれに留まりません。「ふるさと再生のESD(持続可能な開発のための教育)活動、という視点も取り入れていきます」周囲には史跡なども多くあるため、歴史的・文化的な要素を取り入れた活動を地域の人たちとともに計画していきたいという林さん。学校から地域へ、学校ビオトープからまちづくりへ。社会科の先生でありビオトープ管理士でもあるからこそ生まれてくる発想です。「子どもたちには活動を通してふるさとの価値に気付いてもらい、『自分たちのふるさととはこんなにいいところなんだよ!』と自慢出来るようになってもらいたいんです」



いきいきとした子どもたちの表情が何よりの証拠。楽しいことや嬉しいこと、ためになること、人との付き合い方、時には痛いことや失敗も…。学校ビオトープの取り組みは自然や生きもののことだけではなく、いろいろなことを子どもたちに教えてくれます。

定年後の社会貢献！ 身近からのビオトープネットワーク

次は学校の外から。資格を取得後、お仕事として学校ビオトープや環境教育の場で活躍されていた見知さん。身近なところから自然を守るという希望が叶いました。が、定年退職された今も相変わらずお忙しいそうです。

多岐にわたる試験の内容 そこが考えに合っていた

見知さんは、東京生まれの東京育ち。そのため自然の豊かなところで暮らしたことは無かったとのことですが、もとは建設コンサルタントの会社に勤務し、当時から山に赴くことが多かったのだそう。地質や岩石に興味がありました。が、地球環境の悪化と自然生態系の破壊が止まらない現状を見聞きして「これ以上の悪化を防ぎ自然を守るような仕事に、身近なところから参加したい」と考えるように。そのようなとき、ラジオで偶然、ビオトープ管理士の資格を知りました。

「環境系の資格にはいろいろありますが、テキストを見て、ただ自然についての知識だけを問うのではなく、法令など多岐にわたっているところが自分の考えに合っていました」ビオトープ管理士が高く評価され公的な機関などでも活用されている理由は、実はここにあります。また、当初は「技術者」を想定し創設されたビオトープ管理士が「環境教育の指

定年退職後はのんびり…という状況とはほど遠く。これまでに培われた豊富な知識や技術、ノウハウは引っ張りだこです。



みしり ともお
見知 知夫 さん
ジョージア園芸(株) 取締役 技術部長
1級ビオトープ施工管理士
東京都



まずは自然のしくみや現状についてしっかり学びます。みんな真剣なまなざし。どんな学校ビオトープが出来るのかな？

※『ビオトープ管理士データベース』は、日本ビオトープ管理士会の会員のうち、希望者を掲載した会員名簿です。web版では地域や専門分野などから検索することも可能、ぜひご活用ください。

導者」としても認められるようになった背景には、自然や環境に関する幅広い知識と見識を持っていることがあるのです。

名簿を見て問い合わせ 区からもアドバイザーを委嘱

「あなたの近くに小さな自然を」このモットーとともに有資格者の名簿^{*}『ビオトープ管理士データベース』に連絡先を載せたところ、都内の学校からお問い合わせをいただくようになり、学校ビオトープの指導を行うアドバイザーを区役所から委嘱されました。

「学校ビオトープは環境教育の教材です。そのため、まずは生態系、生物多様性、外来種、食物連鎖などについて講義をして、ビオトープのイメージづくりや環境調査など、計画段階から児童に参加してもらいます」子どもたちに教えるには、裏付けとなる知識や実体験をたくさん持つていないと難しいかと思いますが？「難しいことです。しかしビオトープ管理士の資格を取ったことで、私自身、生物の多様性というものを実感として分かるようになりました」

学校ビオトープづくりの仕上げには、造成というものを体験してもらうため、ビオトープへの土入れも子どもたちが

行います。自分がつくったビオトープなら、愛着が湧いて、いつまでも愛されるビオトープになりますね。

身近なところから… しかし視点は「まちづくりから」

学校という制約のあるなか、多種多様な野生の生きものが地域から訪れ定着出来るよう、あらゆる要素を抽出・検討し、可能な限りのことを盛り込むという見知さん。個人として引き受けるアドバイザーのほか、会社が区の教育委員会から受託した業務も担当しました。

「たいていの学校には、池がありウサギ小屋がありますが、それらを野生の生きものが暮らせる学校ビオトープにつくり変えていければと思っています」わざわざビオトープに変えていくのはなぜでしょう？「学校ビオトープはもちろんです。区内、都内にたくさんある公園の一角、個人の家の庭などもビオトープとしてつくり直せれば、街中のビオトープをネットワークさせていくことが出来ます。そのようにして、さまざまな生きものがやってくる、自然と共存した持続可能なまちづくりに貢献することが出来ればと思うからです」

ビオトープ管理士には、まちづくりの視点から考える計画部門と、より現場



に近い施工部門があります。見知さんは1級ビオトープ施工管理士、つまり施工部門の資格をお持ちでなのですが、まちづくりの視点を持つて現場に臨みます。これが、広範な知識と見識を持ち、生きものの目線でものごとを捉えることの出来るビオトープ管理士なのです。

そして定年を迎え、自分の好きな分野で社会に貢献出来ればと言う見知さん。これまで積み上げられてきた豊富な知識や技術、ノウハウを活かし、肩書きもよりパワーアップして大活躍。むしろ退職後の方がお忙しそう。



調査や計画の段階から子どもたちが参加。“つくってあげる”ではなく、つくる過程やその後の維持管理、活用も学校ビオトープの要素です。大人はそれを見守りつつ、時には軌道修正し、必要なところで力を貸します。

ちよつとの工夫で自然は繋がる！ 自然の見方が変わって実感



よしざこ ゆみ
吉迫 由美 さん

千曲市役所 企画政策部 企画課
2級ビオトープ計画管理士

長野県

傷を負い保護された野鳥。試験のために勉強し、自然の見方が変われば、その背景にあるものも見えてくるようになります。

ビオトープ管理士というと建設業や造園業などを連想されがちですが、公務員も案外多いのです。その一人である吉迫さんは、お仕事でももちろん、個人としても資格を活かして活躍中。資格を取ったことで、自然の見方が変わったと言います。

「もっと勉強してみたい」 仕事を通じて資格を取得

名月、温泉、風林火山…長野県の北部、古くから交通の要衝として人々の集う歴史と文化のまち、千曲市。その市役所にお勤めの吉迫さんがビオトープ管理士の資格を知ったのは、環境課に配属されたときでした。

「たとえば、ごくありふれた雑草だと思っていたイヌノフグリが、実は環境省のレッドリストに指定されている希少な野草だということを知り、驚いたと同時に面白さを感じました」市民団体の事務局を務め、市のレッドデータブックの作成に向けた調査や保護活動の企画・運営を行うなかで、専門家や市民団体の方々にたくさんのお話を教わりました。

自然観察会のインストラクターとして活動することもある吉迫さんは、ビオトープや自然環境についてもっとしっかりと勉強してみたいと思うように。各種の研修を受講し知識を身に付けていきましたが、せっかくなので、ビオトープ管

理士を受験することになりました。

「環境課にいたことで資格を取る流れになりましたが、自然に対する見方が変わり、良かつたと思います。また資格を取ったことで、分らないことがあれば頼られるようになりました」 仕事を通じてピオトープ管理士になり、活躍される公務員の方は、実はわりと多いのです。

事業のとりまとめ役として 一方、個人としての活動も

吉迫さんがお仕事として取り組んだものの二つに、棚田でのピオトープづくりがあります。「地域の田んぼが無くなると居なくなってしまうような、この環境に昔からいた生きものを見ることが出来る、絶滅危惧種の系統を維持するための取り組みです。そのとりまとめをしました」 特定外来生物であるアレチウリの駆除や草刈りなどの環境管理は、専門家や市民のみなさんとの協働。一口並みの知識や技術を持つ方もいるなか、話し合いのことで進めました。

一方、個人では昨年度から、お子さんの通う学校で学校ピオトープに取り組んでいます。学校にはもともと水路があり樹木も植えられていたそうですが、「流れを少し速くしただけでホタルの餌となるカワナが発生しました。樹木

については樹種の確認などを子どもたちと一緒に実施し、秋には在来種のクヌギ、コナラ、ヤマホタルブクロの植栽も行いました」 調べ学習を促すものであるとともに、カブトムシを呼びたいという子どもたちの希望も叶えるものです。

ところで、ここでの子どもたちの発想はとてもユニークだそう。『ピオトープ改造会社』と称してグループを調査部（植物課、生物課）、建築部、広報部などに分け、それぞれが楽しく責任を持って関わっているんです」 ピオトープネットワークの拠点、つまり生きもののおすむ場所として重要な学校ピオトープではありますが、豊かな感性を育て、課題発見・解決の力を育てるのもまた教材としての学校ピオトープの魅力。そして、その魅力を引き出すのはピオトープ管理士の大事な仕事でもあります。

ちよつとした工夫で自然が繋がる 各校にピオトープがあれば…

ピオトープ管理士になってから自然の見方が変わったという吉迫さん。さまざまな取り組みを進めるなかで、効果を実感することはありますか？「市内の小学校で自然観察クラブを行っていますが、そのうちの1校は川が近い環境でもあるので、ウマノスズクサを植えてみ

ました。それから3年経ち、今ではジャコウアゲハがやって来ます。ちよつとした植物を植えただけでも自然は繋がるということを実感しました」

市内の各校に学校ピオトープがあれば、それだけでもずいぶん自然がネットワーク出来そうですね。しかし吉迫さんはそれだけでなく、子どもたちについてもこう言います。「児童・生徒が、それぞれの立場でピオトープに関わったり、癒やされたりするような空間づくりが出来れば良いなと思いました。そのために、ピオトープ管理士として役に立てればと思います」



棚田ピオトープの管理作業(上)と、学校ピオトープの取り組み(下)。このようにしてピオトープがネットワークしていきます。



子どもたちのための水生生物教室。そこにすんでいる生きものを見ることで、水質や環境の状態を知ることが出来ます。

建設業界のしくみを変える！ 郷土・愛知から全国に向けて…



かぶしがいいしゃ かとうけんせつ

(株)加藤建設 のみなさん**建設業**

1級ビオトープ施工管理士 / 2級ビオトープ計画管理士	2名
1級ビオトープ施工管理士	4名
2級ビオトープ計画管理士 / 2級ビオトープ施工管理士	4名
2級ビオトープ施工管理士	120名

愛知県

近自然工法に関する研修のようす。
日々の勉強の積み重ねと「エコミー
ティング」があつてこそ、このような
技術は活かされているのです。



エコミーティングの一幕。破壊では
なく「むしろ自然を守り再生出来る
のは建設業」との想いを胸に。

最後に一つ、個人ではなく企業の例を。先駆的と評価され受賞した自主的な取り組み、そして全社を挙げてのビオトープ管理士の資格取得。「仕事をする環境が良くなる魅力的な建設業に変えたい」愛知から全国へ「在り方」の提案です。

“未来づくり”の建設業 自然の保全・再生に貢献する

今から3年前、名古屋に世界中の国々が集まり、[※]生物多様性に関する重要な会議が開かれました。そこで採択された地名が冠されることとなった『愛知目標』には、2050年までに自然と共存する社会を実現するという明確なビジョンと、達成すべき具体的な目標が示されています。

そしてその愛知県は蟹江町に本社を構える(株)加藤建設、加藤社長の言葉にハッとさせられました。「建設業は環境を破壊することが仕事なのではなく、人々が求めるものをつくるのが仕事。豊かな自然環境など、良いものを将来世代に残すことが本当の未来づくり——」

自然へのインパクトがとても大きいため、これまでではどちらかというとマイナスイメージが付きまといがちだった建設業。しかし考えてみれば、影響が大きいぶん、その在り方次第で自然の保全や再生に大きく貢献出来るのもまた建設業なのです。

※2010年10月、愛知・名古屋にて生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開かれ、連日深夜まで議論が重ねられました。この生物多様性条約は、生物多様性の保全と持続可能な利用、利用から生ずる利益の公正で衡平な分配を目的とした、人類の生存基盤の存続と各国の国益に関わる重要なものです。

エコミーティング、そして 社を挙げてビオトープ管理士を

そのような熱い想いで加藤建設が独自に取り組む『エコミーティング』は、社員の一人ひとりがアイデアを出し合い、受注した工事を通じて自然と人との配慮した活動を行おうというもの。その内容は、発注者に対する環境配慮対策の提案・実施、現場における自主的な動植物調査の実施、その結果をもとにした在来種の保護と外来種の防除、実施項目の掲示やイベントによる市民への啓発活動から成ります。「最終的には、工事したことで自然と人にとってプラスになるような仕事が出来ればと考えています」そのためには当初の設計を変更するよう提案することも。従来からすれば常識破りなことですが、誠意は伝わり、生物の多様性を高める整備を実施することも出来ました。

ところで、このエコミーティングには専門的な知識、つまり、ビオトープ管理士としての知識が必要不可欠。そう考え、活動を進めるなかで全社的にビオトープ管理士の資格取得を目指すこととなりました。「最終的には全社員の8〜9割を有資格者にするのが目標です。必要とされる知識や考え方を社員が身に付けることで会社としての土台を作

り、現場でより多くの環境対策が提案出来るようになれば、生物多様性の保全に貢献出来るのではないかと思います」

この春で、日本ビオトープ管理士会に登録している有資格者はなんと130名に。業務内容が増えてしまうのに、なぜそこまで頑張るのですか？「将来的というか夢ですが、私たちの活動によって建設業における業務のしくみを変え、建設業が仕事をすると環境が良くなったと言われるような、豊かさの記憶を後世に残せる魅力ある業界にしたいんです」環境技術部の石濱さんはこう言います。しかし、現場で網を手にして生きものの調査をする風景は、まだまだ不思議がられたり驚かれることが多いのだとか。「なぜこのようなことをやっているのか理由を説明すれば、『これからはそういうことが必要だね』と言っていただけなんです」ごく当たり前の光景になる日も、そう遠くはなさそうですね。

自然は公共の財産 「取り組みをスタンダードに」

そしてエコミーティングは、これからの建設事業の在り方を示す先駆的なモデルであると評価され、2012年には愛知環境賞銀賞を受賞しました。「こういう取り組みは、自社だけがやって

も何にもならないと思っています。広がっていかないと、世の中は変わりません。全国に広げて、建設業界のスタンダードにしたいと思っています」

自然は世代を越えた公共の財産であり、その保全や再生は本来、国や地方自治体が公共事業として取り組むべき重大かつ急務な事柄です。コンクリートでは決して実現することの出来ない自然とともにある美しく強靱な国土づくり・まちづくりがこれからの建設業界の進むべき道であり、『愛知目標』達成の近道なのだと思います。



愛知環境賞銀賞を受賞。副知事からも「これからの建設業界の模範となる活動である」と評されました。



社員向けに実施された『ビオトープ管理士特別セミナー』。取り組みを後押し出来ればと、講師陣にも熱が入ります。

「ビオトープ管理士」 制度創設の背景とその概要

環境問題の本質と ビオトープ管理士の役割

以上のように、各方面で活躍している「ビオトープ管理士」のみなさん。しかし、そもそもなぜビオトープ管理士という存在が必要なのか、それ以前に、なぜ自然を守らなければならないのか…。記事のなかにもちりばめて説明してきましたが、ここでは「まとめ」としてご説明します。

BIOTOPとは？ ビオトープ管理士とは？

「ビオトープ管理士」は、自然と伝統が共存した美しく強靱な地域の創造を目指す技術者、端的に言えば、自然の保全・再生を任すことが出来る技術者です。

その名に冠するビオトープ（BIOTOP）とは、生きもの（BIO）と場所（TOP）から成る言葉で、地域の野生の生きものたちが生息・生育する空間を指しています。

つまりビオトープ管理士に期待されるところは、このビオトープをいかに増やしていくのかということであり、かつ、それをまちづくりなどの広域的な視点から効果的に行うこと、となります。

また近年では、その持てる豊富な知識や技術をもつて、環境教育の指導者としての役割も期待されており、現にさまざまな方面で活躍しています。

環境問題の本質と ビオトープ管理士の立ち位置

自然を守るためのアプローチにはいろいろとありますが、なぜこのビオトープに着目するのかご存知ですか？ そのことを理解するため環境問題の内容を整理してみると、その本質は大きく2つにまとめることが出来ます。

① ヒトの営みから生じた不要物によるゴミの問題

② 野生生物が絶滅する問題（健全な自然生態系の破壊）

①には、いわゆる生活ごみや廃棄物の問題は

もちろんのこと、水や大気の汚染、目には見えないCO₂や熱などの排出の問題、その延長にある気候変動（地球温暖化）への対応やリサイクル活動などが含まれます。人為由来のPM2.5や原発由来の放射能も、もちろんゴミの問題です。

一方の②には、野生生物の直接的な殺傷・乱獲・密猟（漁）や、外来種による在来種への影響、生息地・生育地の破壊などがあり、名古屋で開催された生物多様性条約の締約国会議や小笠原諸島の世界遺産（自然遺産）への登録などを経て、ようやく注目されてきたところです。

環境問題の解決とはこれら2つの本質を解決することに他ならず、「持続可能な社会」はこれらを解決することで実現することが出来ます。私たち人類の生存は年間33兆ドル（約3千兆円）とも試算される膨大な「生態系サービス」（自然のめぐみ）に支えられていることが分かっていますが、その生態系サービ

自然のしくみ 生態系ピラミッド



野生の生きものたちは微妙なバランスのうえに生態系をかたちづけています。なにはともあれ、まずは彼らのくらす場所である「ビオトープ」が必要不可欠。そして、健全な自然の生態系からもたらされる自然のめぐみ「生態系サービス」に依存している私たちの暮らし。大量生産・大量消費をやめ、生活ごみはもちろん、目には見えないCO₂や熱、核廃棄物なども含む不要物（ゴミ）の排出は出来るだけ抑えつつ、自然と共存しながら生態系サービスを賢く利用する——。それが目指すべき「持続可能な社会」です。

持続可能な 社会のかたち



©(公財)日本生態系協会

コウノトリが再び空を舞う日も近い——。たとえば関東平野。4県 29 市町村がタッグを組み、健全な生態系、健全なビオトープを取り戻していこうという壮大な取り組みが始まっています。その目指すべき豊かな自然のシンボルが、このコウノトリです。ヒトの生活基盤である自然を取り戻し、それを地域振興や経済の活性化にも広げていく新しいまちづくり。そのような世界の潮流は、わが国にも着実に浸透しつつあります。



スは、健全な自然生態系、健全な生物多様性があることはじめてもたらされるものです。また、人類がこの先も健康で文化的、生産的な生活を続けていくためには、将来世代に対し、この生態系サービスを生み出す健全な自然生態系、健全な生物多様性と、それを取り巻く良好な環境を手渡していくことが必要となります(想像しにくければ、百年先や孫の世代のことを想えば理解出来ると思います)。持続可能な社会とは、生態系サービスを生み出す自然資源を末永く持続させ、それにより人類の存在を遠い将来まで持続することの出来る社会のことであり、環境問題を解決しなければならぬ理由や自然を守る意味はこれに尽きるのです。

しかし、そのようなことを踏まえていない、エコ的な取り組みが多いように思われます。そのためか、1992年の地球サミット以来、環境問題は世界に共通で最大の課題とされているにもかかわらず、解決に向かうどころか全体として悪化する一方です。特に日本の状況はひどく、世界から遅れをとっています。

ところで、先の環境問題の本質のうち、「野生生物が絶滅する問題」の最大の原因は生息地・生育地の破壊、つまりビオトープの破壊であると言われています。

ある野生生物に注目したとき、その生物が生きていくための場所、休眠や採食、繁殖、避難などを行う場所であるビオトープが必要ですが、その餌となる生物にもやはりビオトープが必要で、さらにその餌となる生物にもビオトープが必要です。行き着くところ、自然生態系をまるごと、要するに土地と空間を守らなければ自然は守ることが出来ないのです。あり、ビオトープ管理士はここに着目したもののなのです。

しかし、守るとは言ってもわが国の自然地はもうそれほど多くはありません。都市部においてはより深刻なため、残された貴重な自然地を守りつつも、現実的にはビオトープを再生し自然地を増やすこと、そしてネットワークさせていく作業がメインとなります。ビオトープを守り再生することで、自然生態系、生物多様性を可能な限り健全な状態に戻していくことが出来れば、持続可能な社会が実現出来るのです。

「ビオトープ管理士」創設の背景と趣旨

そのような物事の本質に気付いた環境先進国、ドイツやアメリカなどでは法の整備も早くからなされ、ビオトープの保全事業、再生事業が政策として積極

的に取り組まれてきました。一方、高度経済成長を経てバブル経済に浮かれていたわが国は、残念ながら世界の動きに付いていけてはいません。経済が優先され自然破壊が拡大したことはご存知のとおりのためここでは割愛しますが、それでも1990年代の半ば頃より状況が変わり始めました。

当時、旧建設省による多自然型川づくりが推進され、河川法の改正に向けた動きなどもあったなか、手本として盛んに紹介されていたのはドイツの事例、いわゆるビオトープ事業でした。しかし、その根底にあるビオトープという概念はほとんど知られていません。そして問題は、ビオトープ事業の担い手となる技術者の養成と質の向上でした。

それというのも、ビオトープ事業としての目的を達成するためには従来の土地利用計画や土木、造園の施工技術に加え、生態学的な知識やビオトープの概念、ビオトープの評価能力、応用力、さらにそれらを活かすために関係する法制度の知識まで身に付けている必要があるからです。自然のための取り組みのほずなにかえて自然を破壊してしまうという誤った認識による事故、無知による事故は現在でも散見されますが、当時であればなおのことだったので

しょう。また別の角度から見れば、いわゆる公共事業が行われる場にビオトープの概念を導入出来るのであれば、保全や再生をより効率良く押し進められる可能性もあります（公共の財産である自然を保全・再生することは本来、それ自体を目的化して公共事業に位置付け、積極的に取り組むべきですが）。

そこで、環境NGOのセンター的な役割を担っていた日本生態系協会により「ビオトープ管理士」の資格制度が創設され、ビオトープ事業の担い手を発掘・育成することとなりました。これは、事業の発注サイド、受注サイド、その間に立つ市民やNGOなど、自然のことを思うあらゆるステークホルダーに望まれ、その理解・協力により実現したものです。

社会における ビオトープ管理士への期待

しばしば「弁護士よりも難しいのでは」などと笑い話にもされていたビオトープ管理士ですが、それだけに、有資格者には厚い信頼をいただいています。

たとえば、環境省や国土交通省、農林水産省などの中央省庁、各地の地方自治体や公益団体などでは業務の入札条件や技術者の評価基準として活用されており、近年は1級のビオトープ管理士

でなければ出来ない専門性の高いビオトープ事業も増えつつあります（32、33ページ）。また、いわゆる事業的なもののほか、他社や他団体との差別化、生物多様性の方面への特化、社員・職員のキャリアアップなどを目的として、社を挙げて受験される例も多く見られます。

少なくとも、自然や環境、そのなかでも生物多様性の分野はこれより先、何も対策を行わないという選択肢はあり得ないのであり、むしろさらなる展開が期待されています。昨年の秋に閣議決定された『生物多様性国家戦略2012〜2020』では、百年先の国土の在り方を見据えつつ、『愛知目標』の達成に向けた行程と具体的な施策が示されるところとなりました。生物多様性が最も重要な社会資本であるという認識を社会に浸透させ、地域における人と自然の関係を再構築し、かつ、国際的な振る舞いも求められる。そのような、もはや気分やパフォーマンスでは済まされない、世界中が手を取り合って真剣に取り組まなければならない「環境の時代」に、わが国はすでに足を踏み入れているのです。

そしてビオトープ管理士にはもう一つ、大切な役割があります。自然と対決する従来型の「防災」とは異なる、自然と共に存しつつ自然を利用する「減災」を念頭

においたまちづくり・くにづくりを行うことです。私たちが自然から受け取る

生態系サービスのなかには、資源や癒やし、レクリエーションといったものだけではなく、自然災害からの防護、災害を減らすという効果も含まれます。国連環境計画（UNEP）では災害対策として自然を保全・再生することの有用性を訴えており、事実、災害からの復興にあたり、より安全で安心なまちをつくるための装置として自然地「ビオトープ」を活用する例が世界には数多くあります。スマトラ島沖地震に因る津波では、自生のマングロープ林が被害を顕著に減らしたことが判明し、減災面での自然の保全・再生の重要性が裏付けられました。それをもとに、壊滅的な被害を受けたバングラデシュ（インドネシア）でも、災害は防ぎきれないものだという事実を受け入れ、コンクリートよりも強い自然の森の再生が行われているのです。

誰もが安心して暮らすことの出来る、自然があふれる美しく強靱な日本をつくること、これもビオトープ管理士の使命であり、また、決して不可能なことではありません。やる気と能力のある人材はいるのであって、あとはやるのかやらないのか、それだけのことなのです。

日本建設機械施工協会刊「建設の施工企画」2013年5月号の記事「『ビオトープ管理士』創設の背景と期待される役割」（日本生態系協会）より抜粋、再構築しました。

文責・（株）日本生態系協会 人材開発部 加藤寛章

ビオトープ管理士 資格試験

筆記試験は毎年**9月最終日曜日**
受験申込受付期間は**6月初旬～8月半ば**です



専門性の異なる2つの部門

ビオトープ計画管理士

広域的な地域計画（都市計画、農村計画など）のプランナー

ビオトープ施工管理士

設計・施工にあたる事業現場担当の技術者

難易度による2つの階級

1級 合格率約29%

経験の豊富な事業の責任者レベル（受験資格あり）

2級 合格率約56%

基礎的な知識のある技術者レベル（どなたでも受験可能）

ビオトープ管理士 Biotope Planners and Builders

1級ビオトープ計画管理士 Senior Biotope Planners

1級ビオトープ施工管理士 Senior Biotope Builders

2級ビオトープ計画管理士 Junior Biotope Planners

2級ビオトープ施工管理士 Junior Biotope Builders

合格率は、平成28年度における実績です。

“ビオトープ”は、ドイツ語では“BIOTOP”、英語では“BIOTOPE”と綴られます。

『ビオトープ管理士』は（公財）日本生態系協会の登録商標です。

『ビオトープ管理士資格試験』は環境教育促進法に基づいて環境教育の人材認定等事業に登録されており、よって、ビオトープ管理士の有資格者は技術者としてだけでなく、環境教育の指導者としても公に認められています。



ビオトープ管理士セミナー

筆記試験における択一問題の試験科目

- **共通科目** ビオトープ計画管理士・ビオトープ施工管理士を問わず共通の、3科目。
 - **生態学** 生態系の構成要素、機能、生物と環境の間の相互作用等に関する事項（部門を問わず共通で出題）
 - **ビオトープ論** ビオトープの理念、保護の考え方および方法等に関する事項（部門を問わず共通で出題）
 - **環境関連法** 自然環境および野生生物の保護等に関する法制度（部門を問わず共通で出題）^{※2}
- **専門科目** 1部門につき1科目で、受験する部門によって課される科目が異なる。
 - **計画部門** 都市計画や農村計画、地域計画、国土全体の土地利用計画等において、特に自然生態系の保護・保全、復元、創出を目的とした場合の構想、計画、設計等に関する事項と、それらに関する法制度（ビオトープ計画管理士を受験する場合の専門科目）^{※3}
 - **施工部門** 河川や止水域、海岸、道路、農地、公園、里山、森林、庭等において、野生生物の生息空間を保護・保全、復元、創出する際の設計・施工全般に関する事項と、それらに関する法制度（ビオトープ施工管理士を受験する場合の専門科目）^{※3}

※1 筆記試験では、択一問題のほかに、1級には記述問題と小論文が、2級には小論文が課されます。また、1級の筆記試験の合格者には、別日程で口述試験が実施されます。

※2 法制度に関する問題は原則として、都市計画や農村計画に直接関係するものは「計画部門」で、土木や造園に直接関係するものは「施工部門」で、それらを除く法制度全般が「環境関連法」で出題されます。

※3 専門科目「計画部門」と「施工部門」では、野生生物そのものに関する知識を問う問題も出題されます。

勉強のしかた

公式サイトでは、実際に出題された問題を、問題用紙のままご覧いただくことが出来ます。まずはそちらをご覧ください、ご自身の経歴や経験、スタイルに合った方法で学んでください。

参考書籍としては、全科目を網羅する『ビオトープ管理士資格試験公式テキスト』のほか、市販の書籍を中心に紹介しています。ビオトープ管理士資格試験の参考書籍取扱協力店や、書店・出版社のサイトなどでお買い求めください。

また、2級を主対象とした対策講座『ビオトープ管理士セミナー』が、毎年6月に開催されます。講師はメインテキスト『ビオトープ管理士資格試験公式テキスト』の執筆者陣。早期割引や団体割引もありますので、ぜひご参加ください。

とはいえ、『ビオトープ管理士』にとって現場の感覚はとても大切、机の上の勉強だけでは充分とは言えません。積極的にフィールドに赴き経験を積まれることを、併せてお勧めしています。

詳細はwebにてご覧ください。

公益財団法人
日本生態系協会 ビオトープ管理士係

〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-30-20 音羽ビル
tel.03-5954-7106 fax.03-5951-0246（直通）
受付時間 月～金曜日 9:00～18:00 土曜日 9:00～15:00

「ビオトープ管理士」で検索。 <http://www.ecosys.or.jp/>



岐阜県	岐阜県 大垣土木事務所 河川砂防課	岐阜河川局部改良、県車道路部設改良(配当測試)委託業務 (公告日平成23年6月8日)	管理技術者、技術者の保有資格として、ビオトープ計画管理士が採用された。(級によりランク付けが異なる)
愛知県	愛知県 環境部 自然環境課	平成25年度 伊良湖休暇村公園整備事業	平成25年度～29年度の5年間で、老朽化した屋外プール施設を撤去し、自然公園にふさわしい施設として砂丘とオアシス(湧水)を再生する公園整備の企画・施工案を提出するもので、プロポーザル参加の資格要件として、ビオトープ管理士が工事の計画・施工に携わることが挙げられている。
三重県	三重県 農林水産部	平成27年度 三重県上野森林公園指定管理者業務	自然に関する知識を有する者を2名以上雇用し、月に16日以上配置することが条件となっており、保有資格として、ビオトープ計画管理士の資格が採用された。(級・部門問わず)
大阪府	大阪府 都市整備部 都市計画室公園課	平成28年度 府営公園の次期指定管理者の募集要項	大阪府における全ての府営公園において、指定管理者が保持することが望ましい資格としてビオトープ計画管理士の資格が採用された。(級・部門問わず)
大分県	大分県 大分県庁土木建築部公園・生活排水課	平成25年 大分スポート公園及び高尾山自然公園指定管理者募集要項	緑地管理者の推奨資格としてビオトープ管理士が挙げられた。
越谷市	越谷市 教育委員会	平成28年度 学校ビオトープ環境整備等業務委託	整備に当たる者の要件の一つとして、ビオトープ管理士の資格が採用された。(1級ビオトープ管理士に限定)
八王子市	八王子市 環境部 環境政策課	環境診断士及び環境診断士養成講座の応募資格 (平成17年度～)	市の環境ボランティア「環境診断士」およびその養成講座の応募資格に採用されている。
浜松市	浜松市 環境部 環境政策課	『浜松市環境学習指導員要綱』 (平成23年7月1日から施行)	環境学習指導員の登録申請書のうち、自身の所持する環境学習に関する資格を申告する欄に、選択項目として挙げられている。
大田市	大田市	大田市建設工事入札制度合理化対策要綱	「新客観点数として加点する民間資格等技術者」にビオトープ管理士が添えられており、大町市内に本店を有する建設業者の場合、ビオトープ管理士を有する技術者がいれば建設工事及び建設コンサルタント等業務に係る入札参加資格審査申請における資格総合点数に加点出来る(ビオトープ施工管理士に限る)。
伊賀市	伊賀市 伊賀森林組合	公園管理者の募集要項	採用の応募に際して、所持資格の一つとしてビオトープ管理士が挙げられた。(級・部門問わず)
北九州市	北九州市 契約室 管理課 (建設局 河川部 水環境課)	平成26・27年度 測量及び建設コンサルタント等入札参加資格審査申請	入札参加資格の申請手続のうち「その他調査・測定・コンサルタントのうち『環境設計』その他」の申請者が提出しなければならない「申請業務に関する調査」において、生態系に関する技術者の資格および人数として、ビオトープ管理士の有資格者数を申告することが出来る。(級・部門を問わず)
鹿児島市	鹿児島市 企画財政局 財政部 契約課	平成28年度 建設工事等競争入札参加資格審査申請 (測量・建設コンサルタント業務等)	入札参加資格の申請手続において、登録票にて常勤職員数を申告する際、ビオトープ管理士の有資格者数を申告することが出来る。(県内業者、県外業者ともに。ただし、級の区別あり)
	(独)国立環境研究所	生態系研究フィールド管理業務 (平成25年4月1日～平成27年3月31日)	入札参加に必要な技術者の資格として、ビオトープ管理士が採用された。(級・部門を問わず)
その他	(独)都市再生機構	団地ビオトープのモニタリング調査に基づく整備効果の検証及び維持管理・改善手法の検討業務 (平成25年度)	入札参加に必要な技術者の資格として、ビオトープ管理士が採用された。 (1級ビオトープ計画管理士・1級ビオトープ施工管理士に限定)
	(公財)日本環境教育フォーラム	環境教育図録	日本の環境教育指導者養成プログラムとして、ビオトープ管理士資格が掲載された。
	(一社)建設コンサルタント協会	CPD制度	取得することでCPD単位が与えられる技術資格として、1級ビオトープ計画管理士、1級ビオトープ施工管理士、2級ビオトープ計画管理士、2級ビオトープ施工管理士が挙げられている(「環境アセスメント」10単位)。
	(株)加藤建設	「環境 人づくり企業大賞2016」大賞(環境大臣賞)受賞	ビオトープ管理士資格の取得を軸に、本業に根差す自然と共生した建設業をめざした教育を行っていること、社員の半数近く約100名程度が既に資格を取得していること、資格取得者のためのステップアップ研修や実地研修が充実していること、などの取り組みが評価された。
	各種の企業・団体	社員や専門職員、教員としての採用条件、社員教育のための推奨資格として	採用の応募に際して、所持が必要な資格または所持していると優遇される資格として活用されている。 また、他社との差別化やCRSを目的に、社員教育のための推奨資格に挙げられている。

ピオトープ管理士の資格が活用されている事例の一部

下は事業体や内容、地域などのバリエーションに配慮し(そのため年度は比較的広く採用しています)、多くの事例から資格の活用例の一部をピックアップしたものです。ウェブで検索していただけではさらに新しい情報を集めることが出来ます。また、もし他に情報をお持ちでしたら、日本ピオトープ管理士会 (tel.03-5954-7106) までお寄せいただければ幸いです。

事業体		事業年度・事業名等		内容
環境省	環境省 大臣官房会計課 契約係	平成29・30年度 「測量・建設コンサルタント等」の全業務	一般競争(指名競争)参加資格審査申請書(測量・建設コンサルタント等)において、「有資格者数」の欄に資格保持職員数を記載出来るものとして、ピオトープ管理士の資格が指定されている(業種区分は自然環境共生関係コンサルタント業務)。なお、ピオトープ管理士であれば、部門は問われない。	
	環境省 総合環境政策局 環境教育推進室	『環境教育の人材育成・人材認定等事業データベース』 (平成25年3月～)	「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」に基づき、環境の保全に関する知識および環境の保全に関する指導を行う能力を有する者を育成しまたは認定する事業として、ピオトープ管理士資格試験が人材認定事業に、ピオトープ管理士セミナーが人材育成事業に、環境大臣により登録されている。(つまり、ピオトープ管理士は技術者としてだけでなく、環境教育の指導者としても認められている)	
	国土交通省 総合政策局 建設業課 入札制度企画指導室	『発注者別評価ポイントの活用による資格審査マニュアル』 (平成20年6月～)	入札等に当たって企業の評価をする際、地方公共団体など発注者側の体制が十分ではない場合などでも適切な評価事項を設定出来るよう作られたマニュアル。発注者別評価ポイントの目的である技術力と経営力による競争促進のため、工事の内容に関連する評価項目として、技術力を評価する具体例に挙げられている(長野県での例を通じて)。なお、これは全都道府県の主管部局あてに送られており、さらに市町村への周知や助言への活用が促されている。	
国土交通省	国土交通省 北陸地方整備局	信濃川・阿賀野川流域生態系ネットワーク検討業務 (平成26年度)	管理技術者の要件の一つとして、ピオトープ管理士の資格が採用された。(級・部門問わず)	
	国土交通省 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所	平成28年度 天竜川上流防災・自然体験活動推進業務	管理技術者の要件の一つとして、ピオトープ管理士の資格が採用された。(級・部門問わず)	
	国土交通省 東北地方整備局 岩手河川国道事務所	平成26年度 北上川上流エコロジカルネットワーク計画検討業務	管理技術者の要件の一つとして、ピオトープ管理士の資格が採用された。(1級ピオトープ計画管理士に限定)	
	農林水産省 農村振興局	『農地・水・環境の保全向上のために ―農地・水・環境保全向上対策の取り組み方―』 (平成22年3月 Ver.4)	活動・促進費の対象要件として、ピオトープ管理士を含む専門家の指導や助言を必要とすると規定されている。	
農林水産省	農林水産省 農村振興局	環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の技術指針 (平成27年度改訂)	有識者に環境に関する資格者としてピオトープ管理士追加された。	
	農林水産省 九州農政局	平成27年度 農村環境保全・向上技術フォローアップ調査業務	調査を行う者の保有資格として、ピオトープ計画管理士の資格が採用された。(級・部門問わず)	
	青森県 農林水産部 農村整備課	『農業農村整備工事における総合評価評価方式の評価項目及び評価基準に関する運用方針』(平成27年度)	総合評価評価方式(農業農村整備工事)における技術者の評価項目として、自然生態系に配慮した工事の実施が必要とされる場合には、通常に加え、ピオトープ管理士の資格が採用されている。(級・部門問わず)	
秋田県	秋田県 建設管理課 技術管理室	『総合評価評価方式運用ガイドライン』 (平成20年度～)	県の総合評価評価における技術者の保有資格として、ピオトープ管理士の資格が採用されている。(級・部門を問わず)	
東京都	東京都 建設局 東部公園緑地事務所	石神井公園生物多様性保全管理計画策定業務委託 (平成27年度)	受託にあたっての資格要件の一つとして、ピオトープ管理士が採用された。 (1級ピオトープ計画管理士に限定)	
	東京都 建設局 東部公園緑地事務所	代々木公園(まほ)生物多様性保全管理計画策定業務委託 (平成27年度)	受託にあたっての資格要件の一つとして、ピオトープ管理士が採用された。 (1級ピオトープ計画管理士に限定)	
	長野県 建設政策課 技術管理室	『長野県建設工事等入札制度合理化対策要綱』 (最終改正 平成26年9月29日 26建設技第150号)	「新客観点数として加算する民間資格等技術者」にピオトープ管理士が挙げられており、長野県内に本店を有する建設業者の場合、ピオトープ管理士を有する技術者がいれば建設工事及び建設コンサルタント等業務に係る入札参加資格審査申請における資格総合点数に加算出来る(ピオトープ施工管理士に限る)。	
長野県	長野県 建設部 道路管理課	平成26年度 防災・安全交付金(道路)事業に伴う調査業務委託	一般競争に参加する者に必要な資格の配置技術者の要件として、ピオトープ管理士が挙げられた。(1級のみ・部門間)	
	長野県 林務部 信州の木活用課	平成26年度 県営林道干道線調査業務委託	一般競争に参加する者に必要な資格の配置技術者の要件として、ピオトープ管理士が挙げられた。(級・部門問わず)	

私たち

日本ビオトープ管理士会について

自然に関することなら、 お近くの「ビオトープ管理士」へ。

きちんと自然を守るって、
専門的な知識や考え方、技術が必要なんだ。

地域の「ビオトープ管理士」を
データベースで今すぐ検索！



自然を守り再生するには、「自然を守りたい!」という気持ちがいちばん大事。でも、自然に関する専門的な知識や考え方、技術をきちんと身に付けていないと、逆に自然を傷付けてしまうことも、よくあるのです。まずは専門の技術者であるお近くの「ビオトープ管理士」にアクセスしてみてください。

**ビオトープ管理士は
みなさんのお役に立ちたい！**

私たち日本ビオトープ管理士会は、自然事業・ビオトープ事業の専門技術者であり、環境教育の指導者でもある「ビオトープ管理士」から成る団体です。自然と伝統が共存した美しく強靱なまちづくり・くにづくりを目指し、自らの研鑽とともに、市民のみなさまへの普及活動を実施しています。

先の『「ビオトープ管理士」制度設立の背景とその概要』にあるように、現在、野生の生きもののくらす場所・ビオトープはたいへんな危機にさらされています。それはつまり、私たちの生活基盤が根っこから揺らいでいるということ、今を生きる私たちだけではなく、子どもや孫、その先の子孫の生存基盤が揺らいでいるということです。

そのようななか、ビオトープ管理士は残されたビオトープを守り、あるいは再生し、生物の多様性を回復させることで、豊かな自然資源を将来世代に手渡すという、明確で大きな目的を持って活動しています。

みなさんのお役に立ちたい！ 事業や活動の際には、ぜひお気軽にお声がけください。

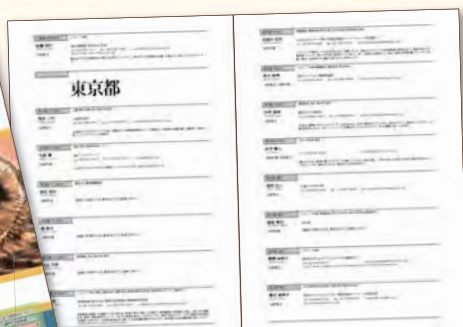
**お近くの「ビオトープ管理士」は
データベースで検索可能！**

日本ビオトープ管理士会の公式サイト「ビオトープ管理士データベース」では、ビオトープ管理士の資格を持つ当会の会員や支部、ビオトープ管理士を抱える企業・団体を紹介しています。

個人の会員については、氏名や地域、所持している資格の種類のほか、「環境調査」や「造園」、「環境教育」といったキーワードで絞り込みをすることも可能。この冊子『ビオトープってこんな人たち』で紹介した会員も掲載されていますので、いちどアクセスしてみてください。

また、データベースはウェブ版のほか、冊子版も用意しています。ご入り用の方は、当会事務局までお問い合わせください。

ビオトープ管理士本人に直接連絡される場合は、「名簿を見た」と告げていただくと、その後のやりとりがスムーズです。



web版、冊子版の『ビオトープ管理士データベース(会員名簿)』でなら、あなたの地域のビオトープ管理士を検索することが出来ます。

日本ビオトープ管理士会

〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-30-20
音羽ビル (公財)日本生態系協会内
tel.03-5954-7106 fax.03-5951-0246
月-金曜日 9:00~18:00 土曜日 9:00~15:00
URL <http://www.biotop-kanrishi.jp>



日本ビオトープ管理士会 北海道東部支部

日本ビオトープ管理士会 みちのく支部

日本ビオトープ管理士会 山形県支部

日本ビオトープ管理士会 関東支部

新潟県ビオトープ管理士会

日本ビオトープ管理士会 富山県支部

日本ビオトープ管理士会 福井県支部

日本ビオトープ管理士会 信州支部

日本ビオトープ管理士会 中部支部(ビオトープ・ネットワーク中部)

日本ビオトープ管理士会 三重県支部

日本ビオトープ管理士会 近畿支部

日本ビオトープ管理士会 京奈和支部(次世代支援を考える管理士の会)

日本ビオトープ管理士会 滋賀支部

日本ビオトープ管理士会 徳島支部(ビオトープネットワーク徳島)

日本ビオトープ管理士会 高知県支部(NPO 法人森・里・川ビオトープの会)

日本ビオトープ管理士会 北部九州支部

日本ビオトープ管理士会 宮崎県支部(Bio. ひむか)

日本ビオトープ管理士会 鹿児島支部(ビオトープかごしま)

支部の連絡先は、web版または冊子版『ビオトープ管理士データベース(会員名簿)』をご覧ください。

会員研鑽のため研修会を開催。一部は一般の方にも公開していますので、ぜひご参加ください。



ビオトープ管理士ってこんな人たち vol.1

2013年 7月16日	第1刷発行	初版	2016年 3月 9日	第4刷発行
2013年 8月27日	第2刷発行		2017年 8月10日	第5刷発行
2014年 1月10日	第3刷発行			

日本ビオトープ管理士会

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 2-30-20 音羽ビル (公財)日本生態系協会内
tel. 03-5954-7106 fax. 03-5951-0246 <http://www.biotop-kanrishi.jp>

『ビオトープ管理士』は(公財)日本生態系協会の登録商標です。

まずはお読みくだ
さい。ビオトープ
管理士とは何を考
え何をする人たち
なのかが分かります。
そして、その力
をご活用ください。

非売品 禁無断転載

日本ビオトープ管理士会は、自然事業・ビオトープ事業の専門技術者であり、環境教育の指導者でもある「ビオトープ管理士」から成る団体です。自然と伝統が共存した美しく強靱なまちづくり・くにつくりを目指し、自らの研鑽とともに、市民のみなさまへの普及活動を実施しています。

日本ビオトープ管理士会

〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-30-20
音羽ビル (公財)日本生態系協会内
tel.03-5954-7106 fax.03-5951-0246
月-金曜日 9:00~18:00 土曜日 9:00~15:00
URL <http://www.biotop-kanrishi.jp>

